

この度の東日本大震災により、犠牲になられた方がたとご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。

また、被害にあわれた方がたに、謹んでお見舞い申し上げます。

BFSニュースレター

発行者 びとファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2011年4月1日発行

Vo1. 23, 第23号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

長期投資に徹しよう！FXや信用取引は元々勝てない勝負

今回の大震災それに続く原発事故を嫌気した、日本株市場の急落と急激な円高で大きな痛手を被った投資家は、大変多かったようです。

日経平均が1日で1200円も下げ、ほんの数十分で4円近くもドルに対し円高になれば、誰でも驚きます。この間、損失が拡大し、信用取引やFXで証拠金が損失が上回り、強制決済が行われ、ネットの掲示板を見れば「目が覚めたら1000万円が飛んでいた」という言葉であふれています。



株価下げの時に大幅に売り越したのには、信用取引の強制決済売りと証券会社自己売買部門、信用取引の手仕舞い売りで、大幅に買い越したのには、外人投資家の割安感からの買いでした。

現実には、90%の人がFX取引では儲かってなく、取引所が発表する信用取引の評価損益は、いつもマイナスです。信用取引で儲かっている人は皆無に近いのです。

ぜひ、次のように意識に埋め込んでいただきたいものです。すなわち、FXや信用取引で儲けたのは、「単なる偶然、ラッキー以外の何ものでもない。」

資産運用の目的は、「人生を豊かに生きること」と私、尾藤は考えています。そうなるために、資産運用が、お金の面で支えます。

そして、資産運用で大事なことは「人生という期間で、資産運用の時間軸を置く」ということです。

若い人にとっては、40年、50年、今では、70歳代の方でも20年は生きることを考えて資産運用をするべきです。さらには子や孫に相続することを考えれば、70年、80年でもいいかもしれません。「人生を豊かに生きるために、お金の面で支える」ということは、「資産運用は、人生の時間軸がもっとも親和性が高い」ことを意味します。

いかがでしょう。FXや信用取引とこのような資産運用とは、同じお金でも「まったく性格が違うもの」に見えてくるでしょう。FXや信用取引は、お金の運用ではありません。パチンコや競馬と同じ、ギャンブルです。

なお、FXや信用取引でなくても、1年以内の短期売買は、資産運用ではありません。株や投信の短期売買も、FXや信用取引と同じで、資産運用とは言いません。短期投資は、木の枝や芽をちよきちよき、切るようなものです。これでは、木は成長しません。実もなりません。木に水をやり育てるのが長期投資で、実がなれば、それが配当金といってよいでしょう。そして、幹の成長は元本の増加です。

「そんなの、まどろこしい」「俺には、時間がない」「いまお金が必要なんだ」という人には、人生の分かれ道とは、ちょっとした、こういう選択によるのかもしれないですね、と伝えたいですね。



日本人よ、いまこそ立ち上がれ！

いま、日本は戦後最大の危機にいます。マグニチュード9の東日本大地震、記録的な津波大被害、おぞましい光景を連日映す原発問題。その上わが国は、少子高齢化、財政破綻懸念を抱え、経済成長も伸び悩みです。さらに悪いことには、これらに対処するために何か必要な対策を講じているという動きは、見えません。

この未曾有の大災害をきっかけに、いよいよ日本人は国の建て直しに向かって、目を覚まさなければなりません。あまりに豊かになりすぎ、日本人は、ファイト・スピリットが弱くなっている気がします。

このままで手をこまねいていけば、日本は大変なことになるでしょう。この閉塞状況を打破するには、国民一人ひとりが、自分の領分で国のために何をできるかよく考え、実行していかなければなりません。



不平、不満からは何も生まれません。ただ従順な国民では、国はよくなりません。一人ひとりが日本をよくするために主張し、国や自治体を厳しく突き上げ、のうのうと生き残る既得権益のレジームを打破して、世界に伍して成長する力強い日本を作り上げなければなりません。

国の帰趨の責任は国民にあるということをもう一度思い出すべき時は、今を置いてないと思います。

今月の言葉:

・「苦悩」という情緒は、われわれがそれに関して明晰判明な(別の)表象をつくるや否や消失してしまう一エチカ



弊社から皆様への情報提供ソース:

びとうファイナンシャルサービス公式ホームページ

<http://www.bfsc.jp>

びとうファイナンシャルサービス公式ブログ

<http://ameblo.jp/bitofinancialservice/>

毎週3分で、資産運用の成功へ導くメルマガ!

<http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

書評ブログ-平日毎日更新

<http://blog.goo.ne.jp/dreamct-1>

Web サイトもご覧ください

<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

電話: 03-6721-8386

携帯: 090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール: info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを
—びとうファイナンシャルサービスの大切な役割

地震保険をあらためて見直そう。

東日本大震災によるすさまじい被害を見るに付け、この被害を保障する保険の必要性を改めて感じる人は多いでしょう。実は、地震保険の加入率は、阪神・淡路大震災、新潟中越地震で高まってきたといっても、23%にすぎません。また勘違いしている人が多いのですが、火災保険では、地震による火災や津波による被害は補償されません。そこで、改めて関心が高まっている地震保険について、そのあらましを見てみましょう。

・保険の対象は住宅及び生活用動産に限られ、補償対象となる保険事故は、地震・噴火またはこれらによる津波を原因とする火災・損壊・埋没・流出による全損(契約金額の100%、時価が限度)・半損(時価の50%)・一部損(時価の5%)。損壊した建物の時価を基準とし、建替え費用(再調達価額)を基準としない。

・火災保険(主契約)の保険金額の30~50%に相当する範囲内で保険金額を設定することになるが、建物5,000万円、家財1,000万円が上限。建物の時価の30~50%を限度として補償する保険であるため、地震保険だけでは住宅を再建するための費用に対して保険金が不足することがあるので、注意が必要。

・地震保険は、火災保険に付帯する形になって、セットでないと加入できない。

・地震損害の巨大性にかんがみ、政府が再保険

し、保険金の支払いを確実にしている。(2008年時点では1回の地震での限度は5兆5千億円)

・地震保険料の所得控除の制度が2007年度より導入されている。

・保険料は、所在地(都道府県)と建物の構造により異なる。所在地は、地震の危険度により都道府県別に1等地~4等地までの4つに区分されている。(4等地は、東京都・神奈川県・静岡県で危険度最高)建物の構造は、木造か非木造かの2つに区分される。

・工場、事務所専用の建物など住居として使用されない建物は補償の対象外。

・1個または1組の価額が30万円を超える貴金属・宝石・骨とう、通貨、有価証券(小切手、株券、商品券等)、預貯金証書、印紙、切手、自動車等も補償の対象外。

・1年当たりの保険料は保険金額1000万円当たり、地域により非木造で5000円から16900円、木造で1万円から31300円。保険期間や建物の等級評価などにより、割引制度がある。

地震保険は、同等の建物を再建築するのに必要な金額を補償する「再調達基準」でないなど不十分な面もありますが、まだ加入していない方は、この機会にあらためて加入を検討してもよいでしょう。

